

伝統的工芸品産業事業者の 魅力を伝える 知的資産経営報告書

～伝統的工芸品産業の魅力とそれを支える知的資産を明らかにする～

四ツ井キモノデザイン研究所

2011年11月発行

INDEX

1. 当社の代表作品	1
2. 当社の概要	2
3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり	3
4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産	4
5. これからの挑戦	5
6. 代表者からのメッセージ	5
7. 作成支援士業コメント	6
8. 知的資産経営報告書とは	7

1. 当社の代表作品



染帯

2009年日本伝統工芸染織展
日本経済新聞社賞「源流」

2. 当社の概要

■ 経営理念

伝承するのではなく、伝統するものづくり
～伝統としての根幹を守りつつ、現代社会に対応するよう、創意工夫する～

■ 当社の特長

● 感覚的な考え方でものづくりを行う

当社は「着物は絵を描くキャンバス(場所)ではなく、ファッションである」と考えております。女性はメイク、衣類、アクセサリ等でお洒落をします。同様に着物でも、お洒落をして楽しんでいただきたいと考えております。そのため当社では、実際に売場へ出向き、生のお客様の声を伺い、加賀友禅の伝統にお客様の声を反映させて、現代社会に対応したものづくりを行っております。

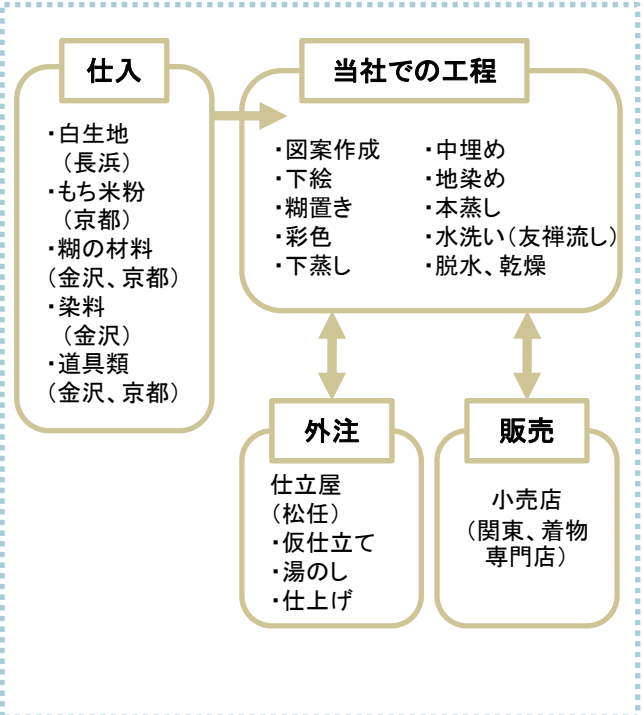
● 論理的な考え方でものづくりを行う

当社は、「デザインは単彩ほど美しい」、「デザインは単純明快でないといけない」、「相反同席(そうはんどうせき)」等の考え方で、ものづくりを行います。「相反同席」とは、相反することが同席することです。具体的には、大きいものを描いた場合、横に小さいものを描くように構成することであったり、直線で構成しながら曲線で構成することです。当社は、感覚的、論理的な考えの双方からデザインを行っております。

● 着物創作を一貫して把握、管理する

当社は着物の品質を向上させるため、着物創作を一貫して把握し、管理しております。あわせて創作工程中に不良品を出すリスクがある場合は、創作方法を改良し、リスクを排除しております。また品質を向上させるため、材料を選別して使用しております。適した材料がない場合は、当社で材料を製作する等を行い、対応しております。

■ 当社のビジネスモデル



■ 企業概要

【代表者】 四ツ井 健(よついでん けん)
【住所】 石川県野々市市新庄3-191
【業種】 和装製品製造業
【従業員数】 2名
【URL】 <http://www.yotsui.jp/index.html>

■ 沿革

平成 3年 四ツ井 健が「四ツ井染工房」として創業
平成18年 日本工芸会正会員に認定
平成21年 いしかわ産業化資源活用推進ファンド事業に採択される
平成23年 めいてつエムザ(金沢市)個展


■ 連絡先

TEL : 076-248-6371
FAX : 076-248-6371
E-Mail : info@yotsui.jp
担当者 : 四ツ井 健

■ アクセス

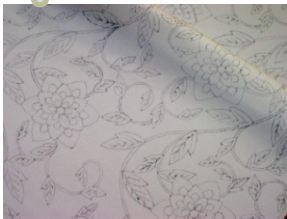


3. 伝統産業品の歴史や当社のこだわり

起源や歴史	隠れた(見えにくい)技術	(表面に)現れた技術	伝統工芸品
<p>加賀友禪の発祥は、今から350年前、加賀独特の染め技法である「梅染」まで遡ります。梅染のほか「兼房染」、「色絵紋」等の染色技法が古くから加賀に伝えられており、これらを総称して「お国染」といいました。</p> <p>この加賀お国染の技法を基礎として、江戸時代中期に、宮崎友禪齋が絵画調の模様染めを指導したところから、加賀友禪が確立されました。</p> <p>宮崎友禪齋は京都で友禪染を始めた人物で、金沢で晩年を過ごし、友禪の指導を行ったと言われています。</p>	<p>「染めのところが生きている」</p> <p>手作りで1点1点丁寧に仕上げられ、作り手の思いが生きている着物は、決して派手でもきらびやかでもありませんが、着る人をなごませ、あたたかくつつみこんでくれる独特の風格を持っています。</p> <p>糸目糊</p> <p>模様の輪郭をなす防染のための糊は、染め上がり後に白く繊細な線として表れ、友禪染めの美しさの生命線とも言えます。</p>	<p>加賀五彩</p> <p>臙脂(えんじ)、藍、黄土、草、古代紫を基調とする紅系統を生かした多彩調であり、日本の色を使って山紫水明の世界を描きます。</p> <p>虫食い</p> <p>加賀友禪のアクセントでもあり、和様美の中でのわくらば(病葉)の美の表現です。</p> <p>先ぼかし</p> <p>花びらや葉をぼかす際に、京友禪のぼかしが内から外に向かっているのに対して、加賀友禪ではその逆方向からぼかしを入れています。</p>	<p>写実的な自然描写と派手すぎない色彩が特徴です。</p> <p>京友禪との大きな違いは、自然の草花、四季の移ろいを写実的に描写する点です。</p>  <p>石川新情報書府 http://shofu.pref.ishikawa.jp/</p>

■ 当社のこだわり

当社では責任を持って、工程を一貫管理しております！！



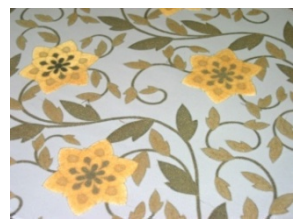
①トレース(下絵)



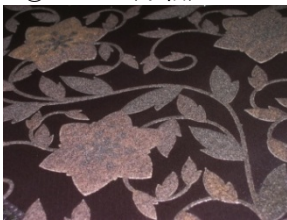
②糸目糊(糊置き)



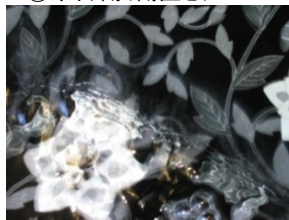
③彩色



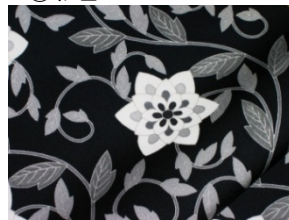
④中埋め



⑤地染め



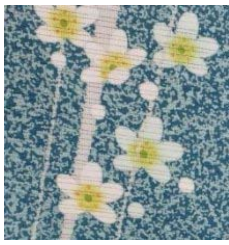
⑥水洗い(友禪流し)



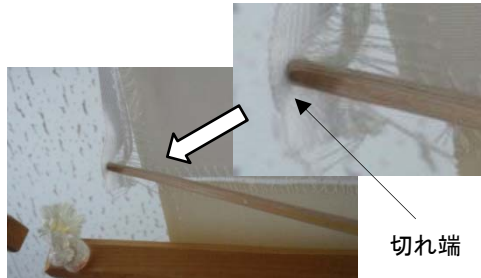
⑦完成



蒔糊



蒔糊を使用した着物例



切れ端

力布、力ぎれ

生地を全体で引つ張る際、本来なら生地の両端の端に竹を通し、広げて両端を吊して彩色等の工程を行いますが、竹を通した部分に染め跡が残る可能性があります。そのため、生地の両脇に切れ端を付け、その部分に竹を通すことで染め跡が残る可能性をなくしております。



完成作品(染帯)

蒔糊

生地の上に蒔糊を撒き、霧吹きで水をかけ、蒔糊を戻して生地に定着させます。蒔糊の工程によって、生地にぶつぶつとした防線ができ、その部分は色が染まらないようになります。それによって、ぼかし模様ができ、絵に遠近感が出ます。

5. これからの挑戦

■ 当社は常に進化します。(未来の価値創造のストーリー)

お客様が喜ぶものづくり	伝統を残すための次世代育成	着物人口の拡大
<p>当社は今後も、お客様が喜ぶものづくりを実施し続けます。</p> <p>お客様が喜ぶものづくりを実施するためには、お客様の声を反映すること、着物に精通したお客様も欲しいと思うものづくりを行うことが重要であると考えております。</p> <p>具体的には、着物専門店や展覧会等にて直接お客様の声を伺い、それを基に一步先ゆく友禪を制作することです。現在のお客様の声と代表のノウハウにより、現代的なファッション性を取り入れた高度な友禪を提供できると考えられます。代表は日々学び続け、品質・技術の向上を図り、お客様の声に対応できるノウハウを蓄積し続けます。</p>	<p>代表は、所有している技術やノウハウや考え方等の伝統を次世代に引き継ぎたいと考えております。そのため、当社は後継者候補を採用し、育成することを検討しております。</p> <p>代表は、自らの理念に合致した後継者候補を、独立させることを前提として育成したいと考えております。</p> <p>代表は後継者候補に加賀友禪の伝統を引き継がせるだけでなく、お客様との接し方や品質へのこだわり方等のお客様から支持されるためのノウハウも伝えたいと考えております。また、後継者候補が独立後に適切な販路を築くために、販売ノウハウも伝えたいと考えております。</p>	<p>当社は、より多くの方に、着物に触れて着物を楽しんでいただきたいと考えております。そのためには、お客様が気軽に安心して購入できる現代に適合した販売システムを構築すること、多くの方が魅力的に感じるように着物のファッション性を高めること、和装のトータルコーディネート提案することが必要であると考えております。</p> <p>代表は、仕立て代等を含めた着物の価格を見える化してお客様の価格に対する不安を解消させ、また、問屋を介さない低価格により少しでもお客様に還元できる販売システムを普及させたいと考えております。</p> <p>代表は、紬(つむぎ)織りの帯を現代的でファッション性が高いと考えており、着物に興味を持つための入り口の商品として普及させたいと考えております。紬(つむぎ)織りの帯は、鈍い光沢を放ち表面に小さなこぶがあり、独特の風合いを生み出しております。</p> <p>代表は、着物に馴染みがない若者から着物に精通した方まで、和装をトータルでコーディネートしていただき、様々な角度から和装ファッションを楽しんでいただきたいと考えております。和装アイテムには着物だけでなく、帯や帯紐、鞆等の小物が豊富にあり、それぞれに対してデザインも多数あります。和装ファッションは洋装ファッションと同様に、豊富な組み合わせが無限にあると考えられます。</p>

6. ～代表者からのメッセージ～



昭和37年 四ツ井健(本名:健治)石川県金沢市に生まれる
 昭和56年 金沢市内友禪工房に勤める
 平成 3年 第32回石川の伝統工芸展初入選(以後連続)
 平成 9年 第34回日本伝統工芸染織展初入選
 平成11年 第46回日本伝統工芸展初入選
 平成18年 日本工芸会正会員に認定
 平成21年 いしかわ産業化資源活用推進ファンド事業に認定
 平成23年 めいてつエムザ(金沢市)個展

高校時代、将来はグラフィックデザインの仕事を目標そうとデッサン教室へ通い勉強をしていました。その時ある友禪工房で師となる人との出会いがありました。師は元メーキャップアーティストとして日本ファッション界創世記に活躍した中の一人で抜群のデザインセンスを持っていました。その師の下で10年余りの修行をしました。振り返ると私のデザインの基礎となる「着物はファッションである」事をここで学んだ事になります。

工房では友禪染の基礎となる技術鍛錬とデザイン研究をし、休日には美術館等で秀作を鑑賞したり野山へ出かけデッサンをする日々でした。数年たった時金沢市在住の陶芸家と出会いデザインの理論的勉強をすることになりました。それは松田権六氏が推奨した「一日一案」のデザイン日誌を重ねることでした。「よいデザインは訓練を積み重ねなければ生まれません。またそのデザインを支える技術力も必要になる。優れた作品はデザインと技術の両輪によって完結する。」ことを学びました。その後その先生の下に通いデザインの訓練を重ね平成三年「石川の伝統工芸展」に第1作目の作品「友禪訪問着・花の詩」を出品いたしました。同年、独立し全国展である「日本伝統工芸展」入選を目標に創作を続けました。その後入選を重ね、平成十八年に日本工芸会正会員の認定を頂きました。

これから、私たち友禪作家が目指さなければならないことはこれまでとは違う考えを持つことと考えます。古くから現代まで脈々と受け継がれてきた日本の伝統工芸の技術力は世界のトップレベルのものがあります。その技術をより生活に合ったデザインと一体にしたものづくりをしなければなりません。つまり「生活に寄り添う友禪」を作り出すことだと考えます。そして生み出されたものを自ら発信、提案する事までを仕事としなければなりません。今の時代、伝統技術を伝えていだけでは市場に受け入れられないと感じています。「今こそ着物はファッションである」を念頭に、時代の動きを敏感に感じその時代の空気にあったものづくりをしなければならないと思っています。

着物離れが加速する中、友禪染は「自分で選んで自分で着る」、「自分の為に、自分が買う」本来の楽しいファッションとしての着物へ向かうことになるでしょう。その様なニーズに応える着物づくりを私は目指したいと思っています。金沢に生まれこの地でこの仕事に携わることができたことに感謝し、常に進化し続ける作家でありたいと思っています。

7. 作成支援士業コメント

中小企業診断士 佐々木 経司

当社代表の四ツ井氏は、感覚的な考え方と理論的な考え方の双方を効果的に取り入れて、ものづくりを実践しておられます。また、自ら販売の現場に立って末端のお客様のニーズを的確に把握し、それを作品に反映させることに努めております。このような取り組みは業界内でも特異と考えられますが、次世代に承継することが、業界の更なる発展に繋がると考えられます。

代表の理念を次世代に伝えるために後継者を雇用することが考えられます。雇用する後継者については、①代表の理念に近い考え方を持った方と、②雇用後の協働により代表の理念を浸透させる必要がある方の2通りが考えられます。代表の理念は特異と考えられるため、①は希と考えられ、現実的には②を選択せざるを得ないとも考えられます。

どちらにせよ、後継者不足を否認しない業界の特性等も勘案すると、人材採用は縁の要素が強く、どのような時機に巡り合いがあるか予想できません。そのため、その時機が来た際に、円滑に後継者候補を迎え入れられるよう、事前に準備をすることが重要かと考えられます。具体的には、後継者候補が代表の仕事の補佐を円滑に行える環境を整える～構造資産を充実させることです。後継者候補との協働が円滑に進むなら、代表の理念を伝える時間や余裕を確保することが可能です。

代表の理念を共有した後継者と共に、御社が更に発展することを期待いたします。

行政書士 勝尾 太一

着物離れが加速する中、加賀友禅の一大産地である石川の地においても、着物に携わる全ての方に様々な努力が求められております。

この状況にあって、四ツ井キモノデザイン研究所代表である四ツ井氏は、「今こそ着物はファッションである」との考え方を背景に積極的なもの作りをしております。友禅作家の工房でありながら図案作成や彩色のみならず、地染め、水洗い(友禅流し)、脱水・乾燥等に至るほとんどの工程を自前で行い、創作工程中の不具合等から生ずる不良品は、全体の工程を把握する者が改善するという方針は特質に値します。着物の品質向上への強い思いは、着物の素材選びにも現れており、通常、友禅に用いることが少ない素材に着目することや、ときには自ら新しい素材を製作することにまで至っております。

これら、もの作りに向けた信念と具体的な創作活動を行っている四ツ井氏の存在は、人的資産として高く評価されるものであるといえます。しかしながら、将来に向け継続的に事業を行っていくためには、人的資産の構造資産化が不可欠と考えます。例えば、伝統的な分業の方法によらず、一貫した工程の管理をしているノウハウや、より良い着物を目指す中で創作される図柄や意匠の管理など創作活動それ自体ではない事項や、営業・販売などについては、ある程度、定式化しスタッフに委ねることも必要になると考えます。この方向付けにより事業の安定化のみならず、結果として創作活動に集中することに寄与し、四ツ井氏の理念の実現に繋がると考えます。

今後、更なる活動の充実と飛躍に期待いたします。

弁理士 横井 敏弘

四ツ井キモノデザイン研究所(以下、当社)は、伝統としての根幹を守りつつ、創意工夫を重ねて、現代のニーズに合った着物を創っております。その根幹は、販売を自ら手掛けることによる顧客ニーズの収集と、顧客ニーズに合った着物創りを実現するための一貫創作体制です。すなわち、従来の販売ルートに固執せず、自ら新たな顧客層を開拓し、現代ファッションの世界とも接点を持っております。また、伝統技法を活かしつつ、新たな素材への挑戦や各工程での創意工夫を重ねることによって、表現の可能性を広げて、現代のニーズに対応した作品・商品を生み出しております。

今後は、当社の考えに賛同する多くの仲間(従業員、同業者、関連事業者)を巻き込んで、加賀友禅の新たな挑戦をより大きなものにしていってほしいと思います。すなわち、関係資産及び構造資産の充実を優先させて頂きたいと思います。その際には、著作権や意匠権の活用もご一考下さい。

当社のムーブメントが益々大きく活発になることを期待しております。

8. 知的資産経営報告書とは

【意義】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、経営理念、顧客とネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー(利害関係者)に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動(価値創造戦略)として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成いたしております。

知的資産のイメージ



【注意事項】

本知的資産経営報告書に掲載しております将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘る弊社を取り巻く経営環境(内部環境及び外部環境)の変化によって、これらの記載する内容などを変更する必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するものではないことを、充分にご了承願います。

この知的資産経営報告書は、石川県が株式会社迅技術経営に委託した石川県民間提案型継続雇用創出事業「伝統的工芸品産業事業者の魅力伝える知的資産経営作成事業」により作成いたしました。